

159 回定例研究会開催 「農福連携」から現代社会を見る

5月12日（土）NTC コンサルタンツ(株)大会議室で、濱田健司氏（国農福連携推進協議会会長・J A 共済総合研究所）と石田周一氏（同愛会幸陽園）をお迎えし、第159回定例研究会を開催しました。

担い手不足に悩む農家と、働く場を求める障害者の双方が連携し、農業の現場で障害者が働く「農福連携」が全国で広がっています。直接土に触れ、植物を育てる農業はセラピー効果も高いと言われており、障害者だけでなく、生活困窮者の雇用や高齢者の生きがいの創出、介護予防といった効果も期待されています。

障害者を含めた社会的弱者、マイノリティーといった人々に対する社会の見方は近年大きく変わってきたとはいえ、まだまだ根深い偏見や垣根が残っているのが現実です。しかし、このような人たちが“当

たり前の存在となり、社会で共創・共生する一員となることにより、持続可能な成熟社会の構築”（全国農福連携推進協議会設立趣意書より）を可能にするものであると思います。一方、農業は高齢化や担い手の減少により、産業としてみれば社会的弱者ともいえる存在です。しかし、濱田さん、石田さんに言わせれば、このような社会的弱者が一緒になれば、両者の化学反応により共生的な社会を創造する大きな原動力になる（という“妄想”をいつも持ってらっしゃるそうです）と言えます。



「農福連携の過去・現在・未来」

濱田健司氏；全国農福連携推進協議会会長・J A 共済総合研究所

農水省は10年ほど前から経営局の取り組みとしてモデルを作り検証してきましたが、この段階では未だ全国的な広がりを見せるまでには至りませんでした。近年、農村振興局が取り組むようになってから急速に広がりを見せているとのこと。農政局レベルで、農業と福祉が交流を図るために、関係団体、個人、行政などで構成するネットワークや協議会が設立されています。このような行政の積極的働きかけもあり、障害者の農林水産業分野における就労者数は、平成20年に700名強であったものが、現在では3000人ほどまで増加し、福祉サイドでも農業活動に取り組んでいる事業所は33%以上、農産物加工、飲食事業に取り組んでいる事業所は8%程度までになっています。



農家には、「障害者に農業を任せても大丈夫か」という不安があるので、これを払拭する啓蒙活動がポイントになると濱田さんは言います。実際に障害者が作業をしている現場に農家の方が見に行くと、『こんなにできるんだ！』と驚かれる方が殆どだそうです。障害者はみんなが思っている以上の潜在能力を持っており、それぞれの個性や特性に配慮し、適切に指導していけば、大きな力を発揮すると言います。障害者施設に農作業を委託するとき、どうやって障害者に作業の仕方を教えていいかわからないという

農家の方は少なくないですが、施設スタッフの方に農作業のやり方を教え、障害者にはスタッフの方が伝えるという方法取れば問題ないそうです。

濱田さんは、これは石田さんもお話しされていることですが、ただ“障害者がかわいそうだから”、あるいは“地域貢献、社会貢献のためだから”と言うことで農家が障害者を受け入れるということでは限界があると言います。農家だってそれなりに儲からなければならない、障害者もその重要な働き手なのだという視点を持たないと継続しないと主張されています。そのためには、一人の人間としての人格を認めることが非常に重要だということもおっしゃっています。また、農家側も、障害者が働きやすい職場とするためには、農業の季節性という限界を克服し、食品加工など多様な取組、いわば農業の六次産業化を見据えた取り組みが必要だということです。

また、「農福連携」は、障害者だけでなく、高齢者やニートなど、今後ますます増加するであろうこれらの社会的弱者の社会参加の場として、非常に重要な役割を担っていることを強く訴えられました。

濱田健司氏 略歴

1969年生まれ。

東京農業大学大学院修了。元慶應義塾大学大学院特別研究教授等。

現在、JA 共済総合研究所主任研究員／農林水産省農林水産政策研究所客員研究員／「農」のある暮らしづくりアドバイザー、農業経済学博士。

【主な著書】農福連携の「里マチ」づくり

農の福祉力で地域が輝く—農福+α連携の新展開

「農福連携・実践の日々」

石田周一氏；社会福祉法人グリーン

「グリーン」は、障害のある人々の自立を支援する障害福祉サービス事業所で、18年前に地域作業所としてスタートし、平成19年に社会福祉法人の認可を受けました。施設に通うメンバーは現在38名。自閉症やダウン症、比較的重度の知的障害のある人が多く、養護学校の高等部を卒業して入所した人たちが大半を占めています。

一般に障害者の作業所は施設内での軽作業が多いのですが、ここでは、土作りから、種まきや草刈り、農作物の収穫と、メンバーが畑仕事のすべての行程に関わり、農作物の直売や加工品の販売を行っているそうです。障害者支援に農業を取り入れた理由は、外に出て、自然の中で体を動かして働くことが癒しや鍛錬になり、豊かな暮らしができるからということです。ヒントとなったのは、栃木県足利市にある「こころみ学園」の活動でした。知的障害のある人たちが働き手となって、ブドウ栽培からワイン醸造を行っているこころみ学園は、「ココファーム&ワイナリー」として全国にその名前を知られています。カフェを併設したワイナリーは、自家製ワインを味わいにたくさんの人々が訪れる人気スポットです。

グリーンに入所した頃は落ち着きがなく、集中して物事に取り組むことが難しかったメンバーも、仲間と一緒に畑で働くうちに体力や集中力が付き、年を重ねるごとに、それまでできなかったことができるようになっていくそうです。メンバーの心に落ち着きを与えている一番の要因は「自分にはやるべき仕事がある」という責任感や「自分は社会から必要とされている」と感じることはないかと言います。



グリーン農園では、味噌作りや芋ほりなどの体験の場を用意し、地域の人々と交流する機会を設けています。芋ほりには、近くの保育園や障害児者など、年間約200名の参加者がありました。こうした地域の人々と交流する機会をもっと増やし、多くの人が集まる場を作りたいと考えているそうです。

石田周一氏略歴

1961年 東京都生まれ

青山学院大学文学部卒業、東京都立大学人文学部教育研究質研究生修了

障害児地域訓練会「さくらんぼ会」専従職員を経て1993年グリーン設立。所長を務める。

【主な著書】耕して育つ

第44期 山崎農業研究所会員総会の開催について

第44期の会員総会は以下の日程で開催することで検討しています。具体的なプログラムについては、詳細が決まり次第、はがき通信等でお知らせいたします。

開催日 2018年7月28日（土曜日） 13:00～17:00

場 所 NTCコンサルタンツ（株）会議室 東京都中野区本町1丁目32-2 ハーモニータワー20階

山崎記念農業賞推薦のお願い

7月の総会開において山崎記念農業省の授与を行います。選定は6月6日の選考委員会で行う予定です。それまでに会員におかれましては、農業賞にふさわしい個人、団体の推薦をお願いいたします。公式の推薦は推薦理由や活動内容が分かる資料が必要ですが、とりあえず打診程度の推薦ということで、メールや電話で簡単に紹介していただいても結構です。5月末日までをお願いいたします

■まだ大きな注目は集めていないが、農業や農村の健全な維持、発展、あるいは安全安心の食料提供に寄与している個人、団体を対象とします。比較メジャーな賞をすでに受賞している場合や、マスコミ等に大体的に取り上げられている場合は、山崎記念農業省の趣旨からやや外れてしまうかもしれませんが、程度問題なので、推薦者がこれは面白いと思うようでしたら遠慮なく推薦してください。

■農業者、農業法人、行政や担当者、農業・食料関係の研究者・技術者、企業家、農民・市民運動家など、対象の形態は問いません。

■すでに効果が現れている活動だけでなく、今後、大きな可能性を秘めていると思われるものも表彰対象となります。

会費納入と寄付のお願い

山崎記念農業賞基金の寄付募集と会費納入のお願い

山崎農業研究所は、会員の会費や寄付で財政のほとんどを賄っています。会費納入・寄付にご協力くださるようお願いいたします。

入金先； 郵便貯金 山崎農業研究所 口座番号 10130-79304751

みずほ銀行 普通預金 山崎農業研究所 四谷支店 (036) 口座番号 8043304

事務局連絡先 益永八尋 E:mail yahiro_mas@hb.tp1.jp (自宅)

渡邊 博 E:mail hi.watanabe@ntc-c.co.jp (NTC コンサルタンツ株)

会員名簿について

個人情報保護の観点から、ここ数年会員名簿を作成していませんが、会員名簿が欲しいという声も寄せられており、会員の承諾の範囲内で名簿を作成したいと思います。下記内容を FAX、E-Mail、はがき等で連絡していただければ幸いです。連絡の期限は 6 月 30 日にいたしますので宜しくお願いします。また、名簿の送付希望があれば、併せてご連絡をお願いします。尚、連絡が無い場合には、公開情報から迷惑電話やメールが届かない、記載情報か下表に表記する範囲に留めます。

名簿記載の承諾

名簿記載の承諾	承諾	連絡がない場合の情報公開の方法
自宅住所	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない	市町村名までを記載
職場住所	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない	記載
電話・携帯（自宅）	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない	記載なし
電話・携帯（職場）	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない	記載なし
メールアドレス（自宅）	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない	記載なし
メールアドレス（職場）	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない	記載あり
職場・所属（会社等）	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない	記載あり
職業・専門	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない	記載あり
名簿の配布	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない	

お願い

名簿配布を希望された方は、会員以外への名簿のコピー、閲覧等による情報提供を行わないようにお願いします。